

## リレーコラム 48 キャリアの積み方 — 私の場合

### 守・破・離

#### ～視点・視野・視座を大切に～

貝沼内科小児科 貝沼 圭吾

“守・破・離”という言葉をご存知ですか？千利休が記した、「規矩作法、守り尽くして破るとも離るとても本を忘れるな」と修行の心得です。修行では、教わった型を徹底的に“守る”ことから始まり、習得後には他流派を取り入れて型を“破り”、型から“離れ”自立する、でも、“本を忘れるな”と、根底にある精神を忘れてならないと示しています。

今回のリレーコラムにあたり、この“守・破・離”を実践するために必要と考えている3つの力をご紹介します。しばしお付き合いください。

まず、「多動力」です。私がラッキーだったのは恩師に恵まれたこと、つまり様々な型に出会えたことです。恩師から“お願いされたらとりあえずやる、誘われたらとりあえず行く”、この生活の中で、縦横無尽の人間ネットワークが形成されました。“我以外皆師”も自分のモットーです。当然、多くの人と付き合うと、有益な人、そうでない人があります。でも、“有益ではない”とは考えず、“自分はどうならない！”と教えてくれた、ある意味で“師”と思うと、笑顔で向きあい、結果、様々な型・視点を学ぶことができました。このスタンスを続けていると、とにかく色々と言をかけてもらえます。医療の世界でも小児糖尿病キャンプやアレルギーの様々な臨床研究、県医師会主体の小児保健政策などに若いうちから参画し、今では中心となっているものもあります。医療以外では、高校時代に出会ったハンドボールも、審判員として、医師として活動を続けた結果、全国大会決勝の吹笛機会や日本リーグレフェリーに選出、またユース日本代表チームのドクターとしてアジア選手権や世界選手権の遠征に帯同する機会も得ました。ハンドボールの集大成は、東京2020五輪でのハンドボール会場医療責任者を仰せつかったことです。IOCやJOC、国際ハンドボール連盟などと4年間にわたり連携しながら準備を重ねました。スポーツを続けてきた私の「オリンピックに関わりたい」という一つの夢が叶った瞬間でした。この多動力によって得た人的ネットワークは、1番の宝物です。この「多動力」は、チャンスを掴むきっかけです。今の立場になって思うのは、“できないと感じた後輩にはチャンスは与えないもの”です。もし皆さんが、チャンスを与えられたのならば、きっとできると感じてもらったのだと前向きに捉えてください！

次に、「ポジティブシンキング」です。NHKのプロフェッショナルという番組で、ジブリの宮崎駿監督の言葉「世の中の大事なことは、だいたい面倒くさい」が、大きな気付きを与えてくれました。臨床現場、研究、論文、人間関係等々、毎日生きていると“めんどくせー”ってありますよね。この言葉を耳にしてから、私は、“めんどくせー＝あっ、これ大事なんだ”と自動変換するように心がけています。一度難題をクリアできると、その後の同じ状況では、違った心持ちで向き合えます。この「ポジティブシンキング」は、もらったチャンスを通じて、自らの経験値を高め、視野を広げるという点で、重要な素養です。

最後は、「俯瞰力」です。私がこの力を身につけたのは、厚生労働省時代です。厚労省出向前から、リーダー的業務を行っていました。その際にも、“最後は責任取るから”なんて、格好つけていましたが、厚労省終了後には、“本当に責任をとってくれる、大きな人になりましたね”と嬉しい言葉をもらいました。行政での所管業務だった日本のアレルギー対策を実行するには、多くのステークホルダーの意見を集約し、賛同される事業を展開しなければなりません。そのためには、各立場を理解し、ニーズを把握し、難点を補完するプロセスが不可欠です。この作業を丁寧に積み上げてこそ、ラストパースンとしての責任を果たすことができると今は考えています。めんどくさいこと（＝大事なこと）に、丁寧に向き合い、自らが汗をかいて取り組む姿勢こそ、何よりスタッフの心を掴めるのだと学んだ瞬間でした。鳥の目のように視座高く、物事の本質を見極める「俯瞰力」が、多くの賛同者を得て、新しい型を生み出すために必要です。

今では、クリニックの院長として、また、いくつかの組織のリーダー・メンバーとして、様々な社会課題に取り組む機会をいただいています。どの立場でいても、何かを作り上げていくには、この3つの力を常に意識し、行動するようしています。そのおかげか、このところは大きな失敗もせず、なんだかいい感じで回るようになってきました。若手の皆様、この3つの力を習得し、視点・視野・視座を意識して、新しい小児科医の型を作り出してってくださいね！

## 【著者略歴】 貝沼 圭吾（かいぬま けいご）

2006年 三重大学医学部卒業

初期研修、後期研修を経て小児科専門医を取得

アレルギー、糖尿病を専攻し国立病院機構三重病院で藤澤隆夫先生に師事

2017年 厚生労働省健康局がん・疾病対策課に課長補佐として出向

アレルギー対策のほか、リウマチ対策、糖尿病対策、風疹第5期接種の制度設計に従事

2019年 医学博士取得

2020年 実家の貝沼内科小児科に戻り現職に至る

2022年 経営学修士(MBA)を取得 病児保育室、子育て支援センター、子ども食堂を運営

[専門] 小児科専門医、糖尿病専門医、アレルギー専門医、公認スポーツクター

[役職] 日本ハンドボール協会メディカルサポート委員(2007～)

日本ハンドボール協会 U17 女子日本代表(2014～2018)

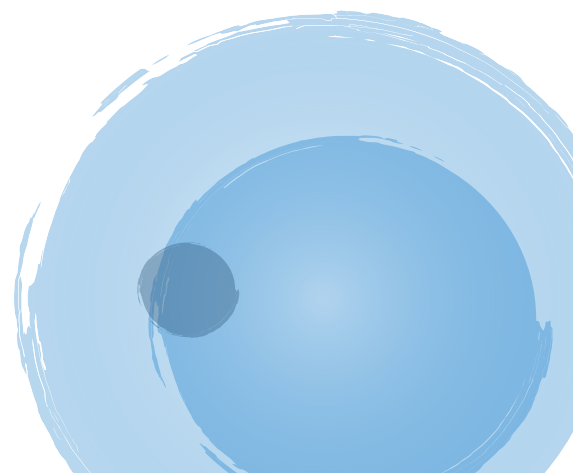
三重県ハンドボール協会 常務理事・審判長(2014～2023)


日本医療研究開発機構(AMED) 科学技術調査員(2019～2023)

全国病児保育協議会 理事(2022～)

日本小児アレルギー学会 代議員 (2023～)

三重県小児科医会 理事(2023～)など





リレーコラム 48  
キャリアの積み方  
－ 私の場合

～ダイバーシティ・キャリア形成委員会より～

「多動力とポジティブシンキング」

昨今話題となっている「多動力」は、文字通りいくつもの異なることを同時進行でこなす力のことで、類似語にマルチタスクがあります。ポジティブシンキングによって与えられたチャンスをしっかり掴み、チャレンジしていくことでさらに「多動力」に磨きがかかり、マルチに活躍をする。そんな力が今の時代に求められている「型」の一つであることは間違いありません。貝沼先生のコラムには、これらを習得するためのヒントがちりばめられています。子ども時代からこのような考えに触れ、身につけておくことが重要だと思います。

一方でマルチタスクが苦手な人や、ポジティブシンキングではない人もいることでしょう。そのような人にも必ず自分なりの「型」があり、それは尊重されるものであり、活躍の場があります。ダイバーシティ・キャリア形成委員会ではこのリレーコラムを通して、今後も多様な「型」を紹介してまいります。

